

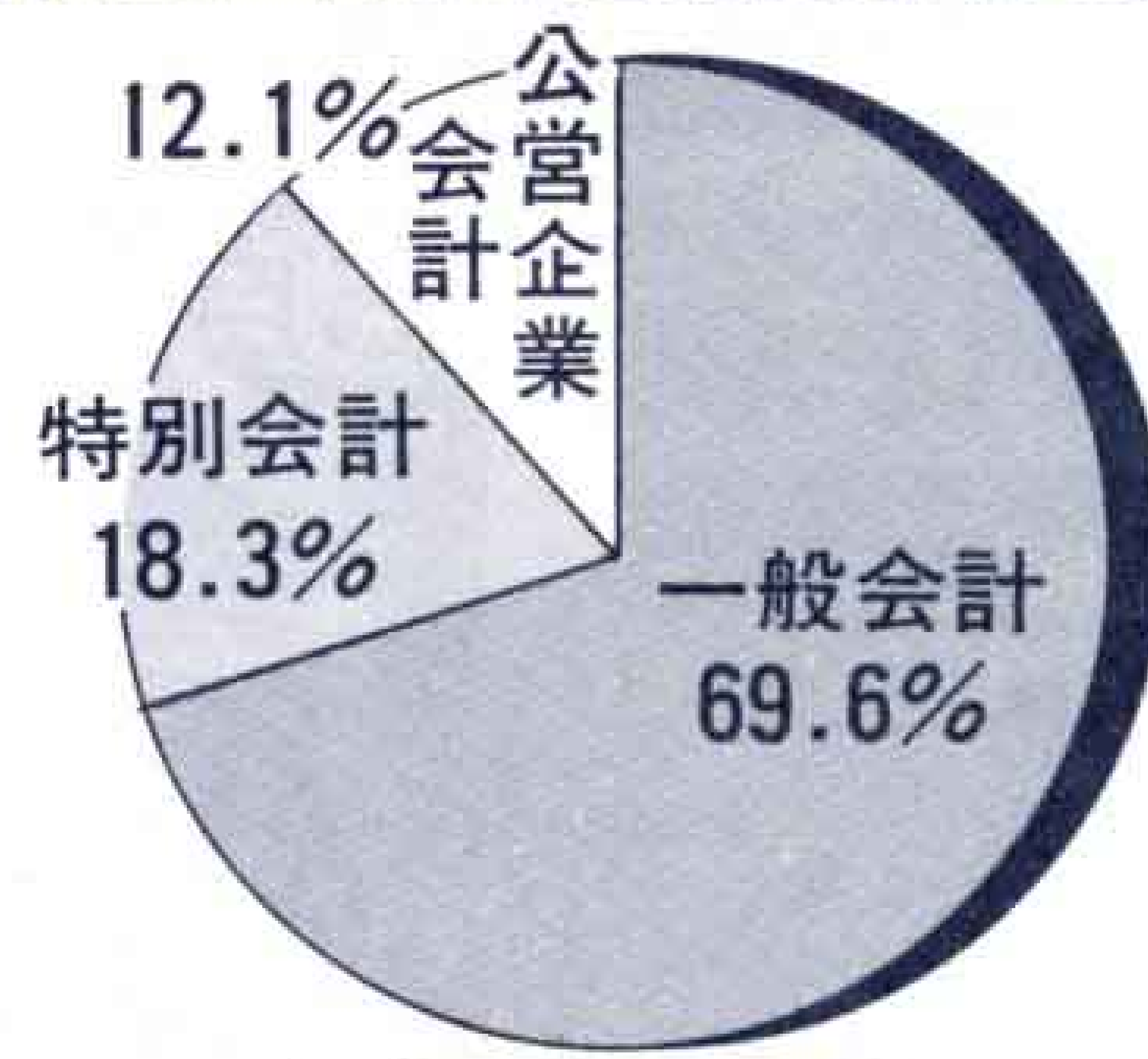
市の家計簿

55年度上半期と

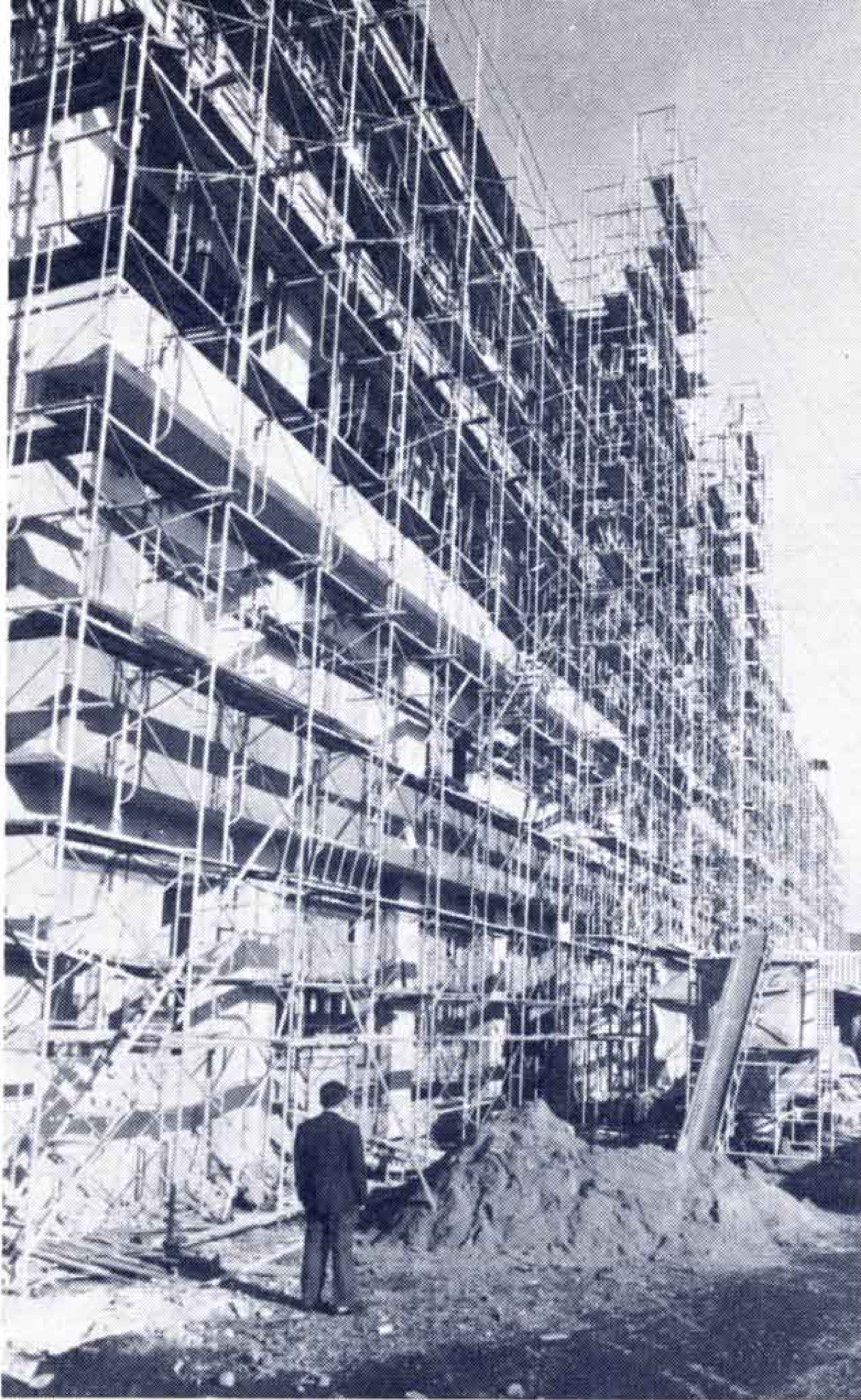
市は、市の財政状況を毎年、前期（4月～9月）後期（10月～3月）に分けて、その年の12月と翌年の6月に公表しています。

今回は、昭和55年度（4月1日～9月30日）の財政状況及び、昭和54年度決算見込みについてお知らせします。

昭和55年度の会計別予算割合

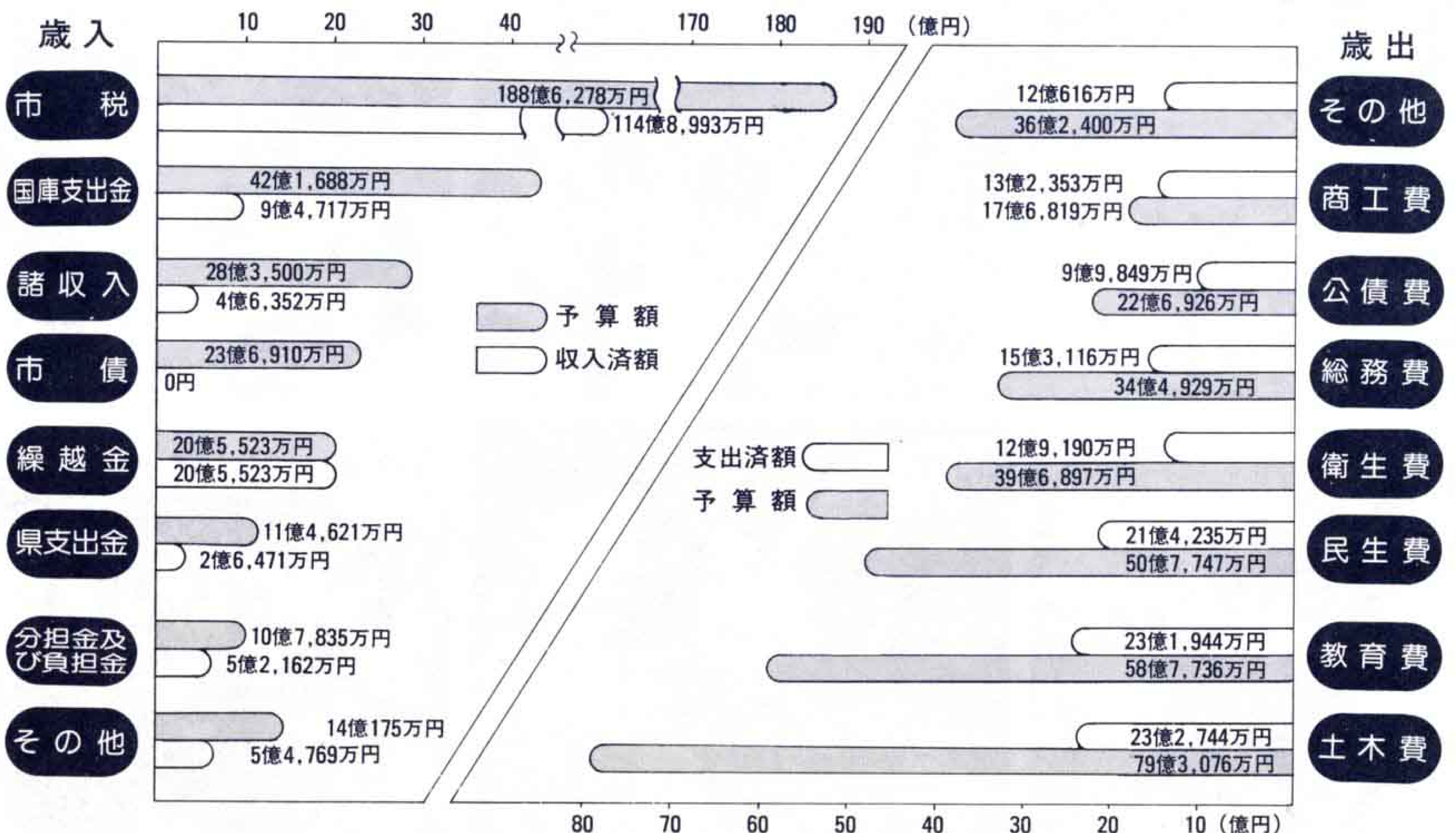


（55年9月30日現在）



56年4月開校予定の仮称吉原北中学校（富士見台）

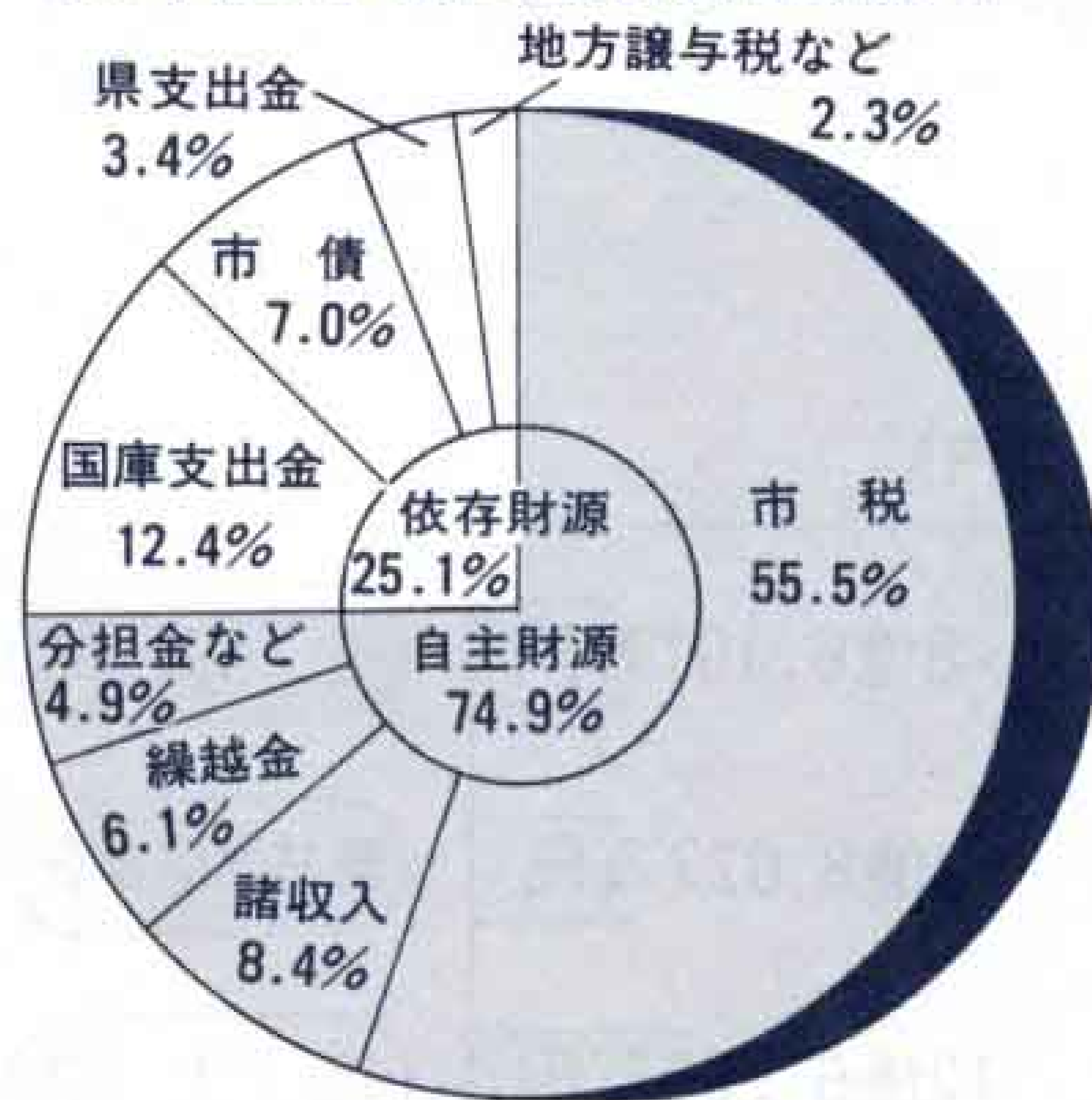
昭和55年度一般会計の歳入歳出予算及び執行状況（55年9月30日現在）



を見てください

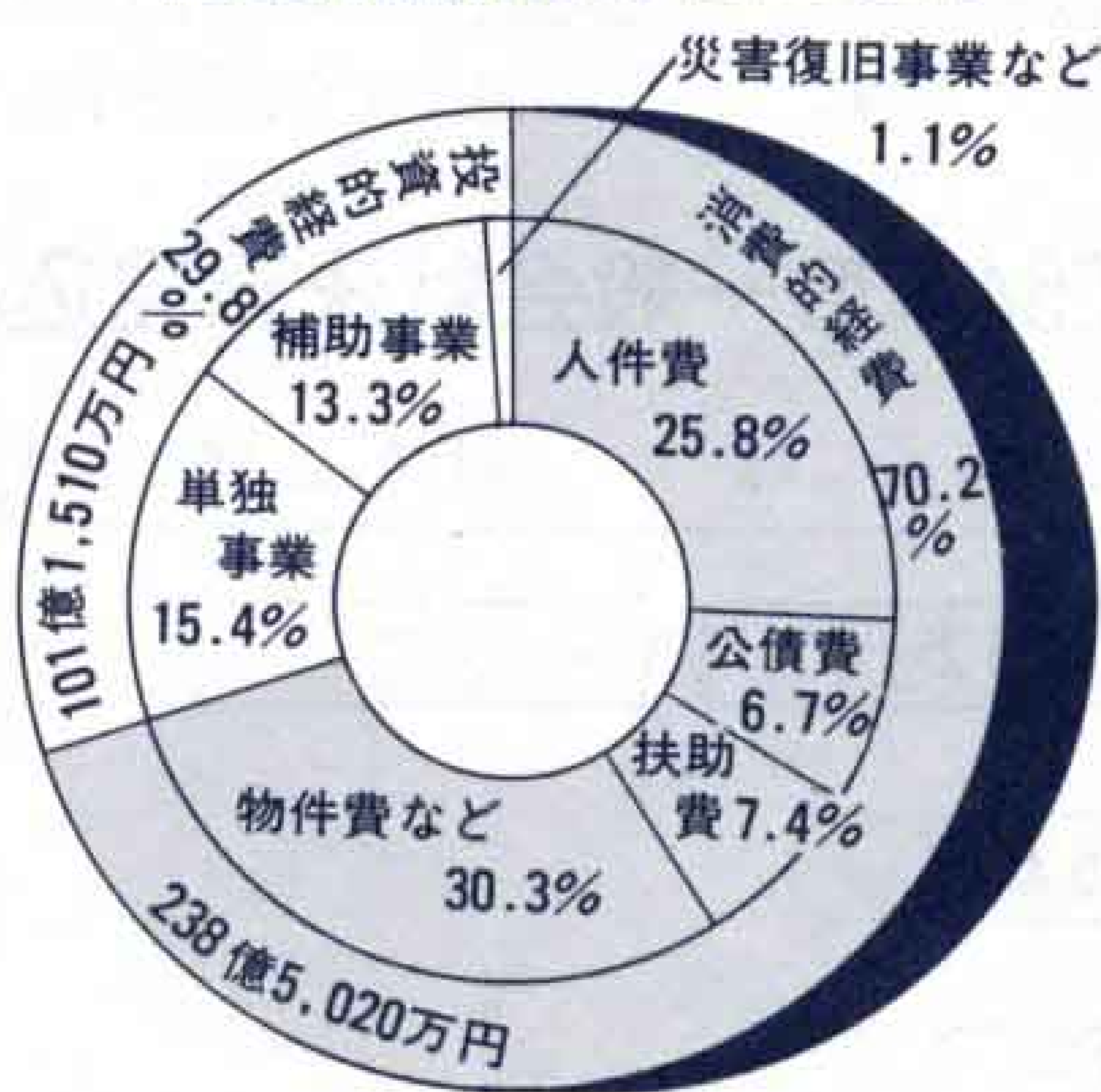
54年度の決算見込み

55年度予算の財源別歳入



(55年 9 月 30 日現在)

性質別歳出のうちわけ



予算総額は487億円

昭和55年 9 月 30 日現在で、55年度の予算額をみると、一般会計 339億 6,530万円、特別会計89億2,645万円、公営企業会計58億7,860万円となり、総額487億7,035万円になります。

一般会計の歳入では、市税が188億 6,278万円で歳入全体の55% を占めています。

歳出のトップは、土木費の79億 3,076万円で、次いで教育費58億7,736万円、民生費50億7,747万円の順となっています。

予算の財源別歳入をみると、自主財源が254億5,054万円で74.9%、依存財源が85億1,476万円で25.1%となっており、富士市は自主財源の割合が高いことがわかります。

歳出を性質別に分けてみると、人件費、扶養費、公債費などの消費的経費が238億5,020万円で70.2%、建設事業、災害復旧事業などの投資的経費が101億1,510万円で29.8%となっています。

次に、公営企業会計の内訳は、水道事業会計が24億583万円、病院事業会計が34億7,277万円です。

市債の状況

市の借金を市債といいます。道路や学校を造るには、巨額な費用が必要となり、市税や補助金だけでは賅えません。そこで、国や銀行からお金を借ります。現在の市債をみると

一般会計債 175億5,010万円
特別会計債 110億1,267万円
水道会計債 42億4,179万円
病院会計債 6億1,149万円

一般会計債の主な借入れ先は、郵政省、大蔵省、市中銀行などです。

市税負担は1人8万266円



昭和55年 3 月 31 日現在で、市民の市税負担状況をみると、1人当りの負担額は、8万266円です。

その主なうちわけは、市民税 3 万 5,229円、固定資産税2万9,991円、電気税6,542円、市たばこ消費税2,971円です。一世帯当りにすると28万 9,700円負担したことになります。

使ったお金は1人当り14万2,621円



市民 1 人当り、14万2,621円使いました。その主なうちわけは、土木費 3 万 3,347円、教育費2万5,792円、民生費2万2,351円、衛生費1万6,299円、総務費1万4,280円、公債費9,397円です。

これを一世帯当りにすると、51万 4,753円になります。

市有財産はこれだけあります

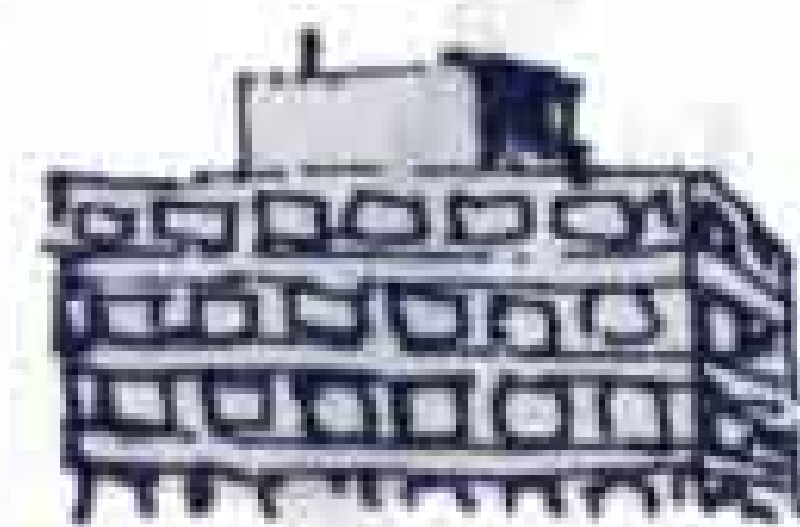
有価証券
2,410万円



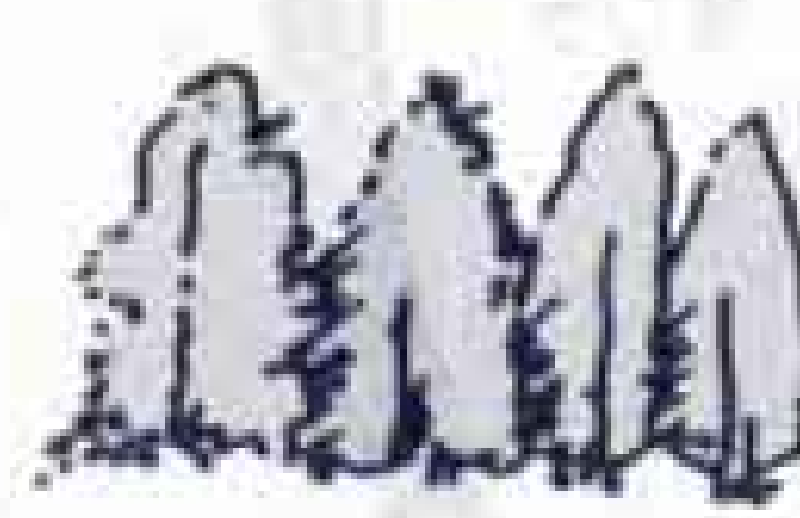
土地
4,868万6,926
平方メートル



建物
48万1,748
平方メートル



立木
16万2,798
立方メートル



車輛
222台

